

# 2005年「日・EU市民交流年」に向けて



題字・鳩山威一郎

機関紙「友愛」  
発行所  
(財)日本友愛青年協会

〒112-0002 東京都  
文京区小石川1-10-13

松本ビル2F

TEL 03-5684-3188

FAX 03-5684-3186

発行人:川手正一郎

編集人:中川 治男

隔月1回 10日発行

購読料  
年額 3,000円

## リヒャルト・クレーデン・カレルギーが 生み出した「人と人との交流」

「友愛」思想の祖リヒャルト・クレーデン・カレルギー伯爵。人々の心を繋ぐ「友愛」の精神を政治家として、個人として実践し続けた鳩山一郎氏。EUの礎となった思想は「友愛」。2005年、日本・EU市民交流年を前に深まるEUと日本の関係。今夏のパレスホテルにおけるカレルギー伯爵展に続き、今秋伯爵の母ミツコを、吉行和子氏が見事に演じます。友愛精神を基に活動を続ける本協会にとって、嬉しい出来事が続きます。

「19世紀末の伯爵夫人」(別記案内参照)が催される。同ホテルの国際マナー・エッセイの松本恵子氏は、来年度の「EU市民交流年」に向けて、駐日欧州委員会代表部とも協力しながら、様々な企画を進めている。R・クレーデン・カレルギーを生んだ日本女性ミツコは個人的にも感銘を受けており、この機会に現代の日本人にも是非そうした側面を広く紹介していきたい」と語る。

R・クレーデン・カレルギーと日本との関係は、本協会との関係をはじめ、まさに「人と人との交流」であり、「2005年日・EU市民交流年」の原動力といえる。

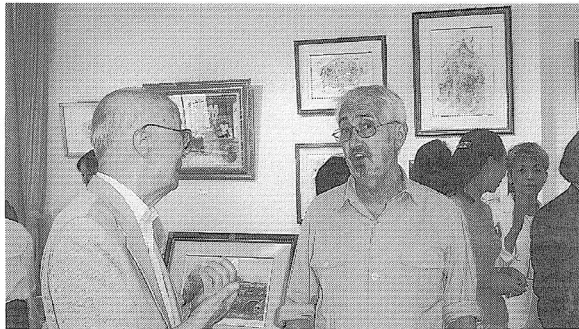
今回の「ミツコ・クレーデン・カレルギー氏の個展を後援した鹿島守の多くを翻訳した故郷鹿島守の助会長時代の旧交を温めた形になっている。

この守之助役後は30年を経た「再会」には、昨年12月に東海大学でオーストラリア・チエコ大使館が共催したR・クレーデン・カレルギーに関する国際シンポジウム(本紙467号参照)も大きく寄与している。

「日・EU市民交流年」の来年に向けて、様々な交流の「忘却」されかねない物ばかりでなく、日欧の旧交を温めることにならざるを得ない。

進められる中で、新親の催された「忘却」されかねない物ばかりでなく、日欧の旧交を温めることにならざるを得ない。

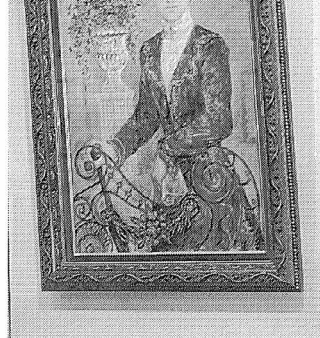
「友愛」思想の祖リヒャルト・クレーデン・カレルギー伯爵。人々の心を繋ぐ「友愛」の精神を政治家として、個人として実践し続けた鳩山一郎氏。EUの礎となった思想は「友愛」。2005年、日本・EU市民交流年を前に深まるEUと日本の関係。今夏のパレスホテルにおけるカレルギー伯爵展に続き、今秋伯爵の母ミツコを、吉行和子氏が見事に演じます。友愛精神を基に活動を続ける本協会にとって、嬉しい出来事が続きます。



と氏とカレルギー伯爵の交流を温めた形になっている。

こうした場合、本協会の思想的根拠を提唱したリヒャルト・クレーデン・カレルギーが、再び脚光を浴びつつある。去る8月にはパレスホテルにおいて、R・クレーデン・カレルギーについての展示が行われ、この中で友愛運動との関係についても紹介がなされた。同ホテルでは7月にもリヒャルトの甥であるミツコ・クレーデン・カレルギー氏の個展が開かれ、好評を博した。

また、来る11月7日には、吉行和子氏の一人芝居『MITSUKO』



ミツコ夫人の肖像画

公使館の米澤菊一館長が何かと手助けしてあげたようである。R・クレーデン・カレルギーは、米澤と別れ際に、二寸おしゃべりして雲場池の鳩山家の別荘に1冊の本をプレゼントした。帰国後、米澤はその本を著名な国際ジャーナリストであった松本重治に貸与し、さらに松本重治は軽井沢での避暑中に、親交のあった市村今朝蔵・自大教授にこれを貸した。

市村今朝蔵は、鉄道通と云われた雨宮敬次郎、通称「雨歌」の甥にあたり、軽井沢のかかりの地筆でアンダーラインの引かれた市村記念文庫の洋書を手にするとき、「人と人との交流」による、又々村記念館は観光地として有名である。今朝蔵は、自分が所有する広大な別荘地に南原文化村と

「友愛」思想の祖リヒャルト・クレーデン・カレルギー伯爵。人々の心を繋ぐ「友愛」の精神を政治家として、個人として実践し続けた鳩山一郎氏。EUの礎となった思想は「友愛」。2005年、日本・EU市民交流年を前に深まるEUと日本の関係。今夏のパレスホテルにおけるカレルギー伯爵展に続き、今秋伯爵の母ミツコを、吉行和子氏が見事に演じます。友愛精神を基に活動を続ける本協会にとって、嬉しい出来事が続きます。

## 鳩山一郎氏の足跡を追う

軽井沢町立図書館の市村文庫に、丹念に読み込ませられた冊の洋書がある。R・クレーデン・カレルギーの著作「Totalitarianism against Man」(鳩山一郎の「自由と人生」)のタイトルを邦訳し、その友愛革命の着想を得た著

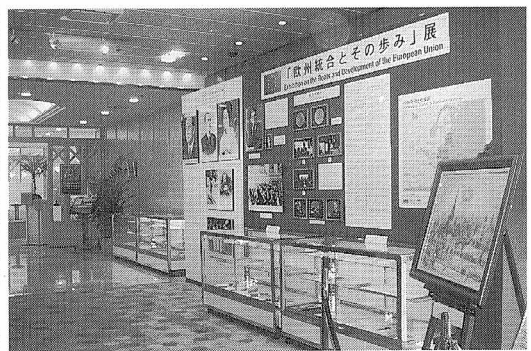
作である。この本が鳩山一郎の手に渡った過程が非常に興味深い。ナチス・ドイツが欧州大陸を席巻した1940年、リスボンの地で米澤一命のための査証を求めた。帰国後、米澤はその本を著名な国際ジャーナリストであった松本重治に貸与し、さらに松本重治は軽井沢での避暑中に、親交のあった市村今朝蔵・自大教授にこれを貸した。

市村今朝蔵は、鉄道通と云われた雨宮敬次郎、通称「雨歌」の甥にあたり、軽井沢のかかりの地筆でアンダーラインの引かれた市村記念文庫の洋書を手にするとき、「人と人との交流」による、又々村記念館は観光地として有名である。今朝蔵は、自分が所有する広大な別荘地に南原文化村と

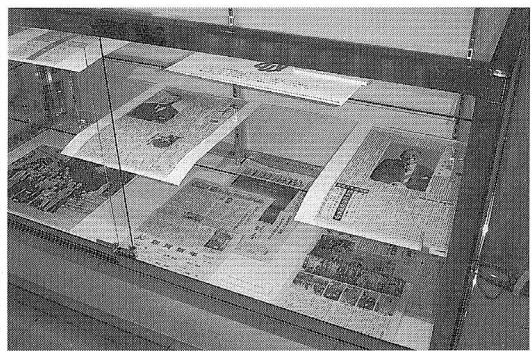
「友愛」思想の祖リヒャルト・クレーデン・カレルギー伯爵。人々の心を繋ぐ「友愛」の精神を政治家として、個人として実践し続けた鳩山一郎氏。EUの礎となった思想は「友愛」。2005年、日本・EU市民交流年を前に深まるEUと日本の関係。今夏のパレスホテルにおけるカレルギー伯爵展に続き、今秋伯爵の母ミツコを、吉行和子氏が見事に演じます。友愛精神を基に活動を続ける本協会にとって、嬉しい出来事が続きます。

「友愛」思想の祖リヒャルト・クレーデン・カレルギー伯爵。人々の心を繋ぐ「友愛」の精神を政治家として、個人として実践し続けた鳩山一郎氏。EUの礎となった思想は「友愛」。2005年、日本・EU市民交流年を前に深まるEUと日本の関係。今夏のパレスホテルにおけるカレルギー伯爵展に続き、今秋伯爵の母ミツコを、吉行和子氏が見事に演じます。友愛精神を基に活動を続ける本協会にとって、嬉しい出来事が続きます。

「友愛」思想の祖リヒャルト・クレーデン・カレルギー伯爵。人々の心を繋ぐ「友愛」の精神を政治家として、個人として実践し続けた鳩山一郎氏。EUの礎となった思想は「友愛」。2005年、日本・EU市民交流年を前に深まるEUと日本の関係。今夏のパレスホテルにおけるカレルギー伯爵展に続き、今秋伯爵の母ミツコを、吉行和子氏が見事に演じます。友愛精神を基に活動を続ける本協会にとって、嬉しい出来事が続きます。



パレスホテルにおける展示会



これまでの友愛運動を紹介

### 友愛時評

▼今年はオリンピックをはじめとして、プロ野球、全国からの予選を勝ちぬいた甲子園の全国高校野球、サッカーの中高・プロの大会など、あげれば限りがない程スポーツの「戦い」が詰まっている。

▼夏はまた戦争のシーンで、爆撃、砲撃、同時多発テロ、自爆テロ、市街戦テロなど、世の中全体が騒然としていて、「人間」は一体どうなってきたのか、と絶望的になる。

▼スポーツも「戦争」だと日本の著名な政治家が言ったが、戦争は政治の手段だというのが定説化した今日では、スポーツは政治の手段だといふ三段論法が成立している。スポーツ用語と戦争用語との類似性は考える必要がある。

▼そういえば国際的にスポーツはナショナルイズムを高揚させる。このことは、北京で8月に行われたサッカーアジアカップ決勝戦では、日本の国歌の演奏が、スタンドの中国人のフラインクによって聞きとれなかったと言われ、日本の国旗も焼かれた。

▼北京では次回のオリンピックが行われることになっているが、大丈夫だろうかかと心配しているのは日本人だけではない。

2面に続く

1面の続き

お知らせ  
吉行和子一人芝居 MITSUKO ミツコ 世紀末の伯爵夫人

吉行和子一人芝居  
**MITSUKO**  
ミツコ 世紀末の伯爵夫人

作・演出 大間知靖子

2004年11月7日(日)

公演時間: 午後7時00分

料金: 前席 ¥18,000 (税込)

ハレス ホテル

お知らせ  
吉行和子一人芝居 MITSUKO ミツコ 世紀末の伯爵夫人

「友愛」の方々のお力をおかりして、初めて海外での公演を致しました。リヒャルトの生誕百年祭が、スイスのジュネーブで行われた。その後、何回かのヨーロッパ公演を行い、沢山のの方に観ていただきました。年齢は違っても、ミツコの人生は共感を持って迎えられています。今を生きていく日本の皆様、ぜひ観ていただきたい。そしてミツコに、幸せな人生を送ってほしい、そう思っています。母であり、そして女性であるミツコは、何よりも平和を願ったのだと思います。

三年目、とうとう二十一世紀になりました。ミツコは十九世紀末に生きた実在の女性です。ミツコの舞台は今年で十

独立行政法人国際協力機構(JICA)が行う「青年招へい事業」

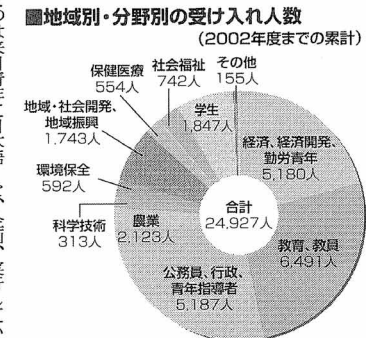
青年招へい事業とは  
「青年招へい事業」では、開発途上の国造りを担う青年達を日本に招き、専門分野についての研修、日本の青年との交流などのプログラムを実施しています。これらを通じて専門知識を学ぶとともに日本ならびに日本文化を理解してもらい、開発途上国において活躍する人材育成を目的として JICA (Japan International Cooperation Agency) が行っているのは、JICA (国際協力機構)で、総務省に属する独立行政法人です。

この招へい事業を行っているのは、JICA (国際協力機構)で、総務省に属する独立行政法人です。国際協力を担う独立行政法人です。事業内容は、日本人が海外へ出張して行き、現地に即して技術指導等を行う技術協力、海外から日本人研修生を受け入れること、日本での技術者を身に付けて日本へ帰国して頂く研修、修学費を支援する青年海外協力隊などのボランティア活動などです。

この招へい事業は、20年前です。発足は昭和58年です。中曽根総理(当時)がアセアン諸国訪問の際に、クランブルにて掲げた「21世紀のための友情計画」に基づき昭和59年度より開始されました。

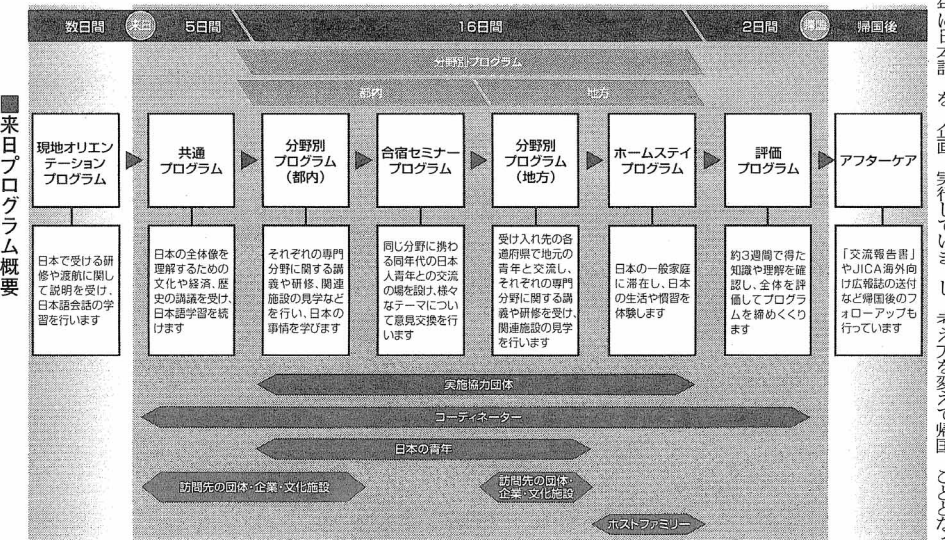
日本友愛青年協会も協力

「友愛」の方々のお力をおかりして、初めて海外での公演を致しました。リヒャルトの生誕百年祭が、スイスのジュネーブで行われた。その後、何回かのヨーロッパ公演を行い、沢山のの方に観ていただきました。年齢は違っても、ミツコの人生は共感を持って迎えられています。今を生きていく日本の皆様、ぜひ観ていただきたい。そしてミツコに、幸せな人生を送ってほしい、そう思っています。母であり、そして女性であるミツコは、何よりも平和を願ったのだと思います。



「交流報告書」やJICA海外向け広報紙の送付やフォローアップを行っています。約3週間で得た知識や理解を確認してプログラムを確めくりします。日本の一般家庭に滞在し、日本の生活や習慣を体験します。受け入れ先の各道府県で地元の青年と交流し、それぞれの専門分野に関する講義や研修を受け、関連施設の見学を行います。同じ分野に携わる同年代の日本人青年との交流の場を設け、様々なテーマについて意見交換を行います。

この事業は、20年前です。発足は昭和58年です。中曽根総理(当時)がアセアン諸国訪問の際に、クランブルにて掲げた「21世紀のための友情計画」に基づき昭和59年度より開始されました。



招へい開始年度

1984年度	(ASEAN諸国: ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ)
1986年度	(ミャンマー、フィジー、バブア、ニューギニア)
1987年度	(中国、韓国)
1988年度	(太平洋諸国・地域)
1991年度	(南西アジア諸国: バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ)
1992年度	(モンゴル)
1993年度	(アフリカ諸国)
1995年度	(インドシナ諸国: カンボディア、ラオス、ヴィエトナム)
1997年度	(中南米諸国)
1998年度	(サウディ・アラビア、中央アジア諸国: カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン)
2000年度	(コーカサス諸国: アルメニア、アゼルバイジャン、グルジア)(東チモール)





